

評価細目の第三者評価結果

(保育所、地域型保育事業)

I 福祉サービスの基本方針と組織

I-1 理念・基本方針

	第三者評価結果	コメント
I-1-1(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。		
I-1-1(1)-① 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	a	①保護者には重要事項説明書、見学時や入所説明会、クラス懇談会などで資料をもとに繰り返し伝え周知に努めている ②園が大切にしている「3つの方針」は保育場面(生活・遊び・関わり等)の具体例と結び付けて示し、保護者が保育のねらいをより理解できるよう工夫されている ③職員には入職時に理念・基本方針を説明し、毎年の研修で内容を再確認する機会を設けている さらに研修を実施し日々の保育や判断が理念・方針と照らして適切かを確認し反映できるよう努めている 全体計画や自己評価表に理念・基本方針を明記し職員一人ひとりが節目ごとに振り返れる工夫がある

I-2 経営状況の把握

	第三者評価結果	コメント
I-2-1(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。		
I-2-1(1)-① 事業経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	a	①本部は「行政政策」「業界の動向」「社会情勢」「各エリア・園からの報告」などから状況を把握・分析し安定した経営継続に努めている ②園は「市内私立園長会」「法人近隣施設との会議」などから運営上の課題、地域のニーズなどの情報収集に努めている さらに毎月実施している地域交流で保護者や地域住民の声から実態やニーズ把握に努めている 情報は本部や法人内近隣園へ共有し、法人全体で状況を把握している
I-2-1(1)-② 経営課題を明確にし、具体的な取り組みを進めている。	a	①経営課題は単年度計画に保育・運営・財務・人事の各領域に「目標」「課題」「具体的方策」を明確にし業務改善に取り組んでいる

I-3 事業計画の策定

	第三者評価結果	コメント
I-3-1(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。		
I-3-1(1)-① 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	c	①中・長期計画は策定されていないが、今後策定していく意向を持っている
I-3-1(1)-② 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	c	中長期計画は策定されていないが ①計画は全体方針と重点施策を定めたうえで、保育・運営・財務・人事の各領域に「目標」「課題」「具体的実施事項」を明示している ②職員が自身の業務と結び付けて理解しやすく実行しやすいものとなっている

I-3-(2) 事業計画が適切に策定されている。		
I-3-(2)-① 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	a	①単年度計画は毎年2月に当該年度の計画を振り返り成果と課題を具体化し次年度の計画を策定している 具体的実行者を定め年間を通して実現可能にしている ②計画は中間の振り返りの機会を設け、進捗や課題を明確にしている ③計画どおりに進まない場合は要因を整理し次に必要な手立てを検討したうえで年度後半の取組に反映できるよう工夫している また自己評価にランクを付け取組の達成状況を確認できるようにしている
I-3-(2)-② 事業計画は、利用者等に周知され、理解を促している。	a	①「入園説明会」「クラス懇談会」「園だより」などを活用し主な内容を説明し理解を促している また必要に応じて個別に伝えるなど丁寧な対応に努めている

I-4 福祉サービスの質の向上への組織的・計画的な取組

	第三者評価結果	コメント
I-4-(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。		
I-4-(1)-① 福祉サービスの質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	a	①定期的に第三者評価を受審し課題把握と改善に努めている ②災害・安全・衛生など各種計画を策定しPDCAのもと具体的な改善に努めている ③年1回、3か月かけて保育内容や保育環境について自己評価を行い、日常の保育を改めて見直している ④保育士間で学び合えるよう公開保育の実施や行政などからの視察を積極的に受け入れ外部の視点を保育の振り返りに活かすよう努めている ⑤会議では良い取組の職員の具体的な行動を共有し園全体で参考になっている
I-4-(1)-② 評価結果に基づき組織として取組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	a	①各計画の振り返りから抽出した課題は事業計画や各計画へ反映し優先順位や取組内容を明確にし実効性を高めている ②自己評価は良かった点と課題を整理している 写真を添え改善の意図や到達イメージが共有でき年度ごとの変化に対応できる資料としている また結果はSNSで報告している

II 組織の運営管理

II-1 管理者の責任とリーダーシップ

	第三者評価結果	コメント
II-1-(1) 管理者の責任が明確にされている。		
II-1-(1)-① 管理者は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	a	①分掌表、各種マニュアル、重要事項説明書等で役割と責任を明示し職員理解に努めている ②把握した意見や提案、保育の様子から理念や個人の目標に沿った保育が行えるよう助言や提案を行っている
II-1-(1)-② 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	a	①園長は「各種研修から得た情報」「行政の通知」「本部からの最新情報」を確認し職員へ説明している
II-1-(2) 管理者のリーダーシップが発揮されている。		
II-1-(2)-① 福祉サービスの質の向上に意欲をもち、その取組に指導力を発揮している。	a	①目指す保育像を明確にし、課題を整理したうえで、取組の意義と進め方を繰り返し伝え、質の向上に努めている ②職員一人ひとりの強みを生かした役割を付与し、活躍の機会を広げ園全体が向上するよう努めている

<p>Ⅱ-1-(2)-② 経営の改善や業務の実効性を高める取組に指導力を発揮している。</p>	<p>a</p>	<p>①保育の巡回や各会議などから状況を把握し必要に応じて助言を行っている ②抽出した課題解決のため具体的計画をたて実効性を高めている ③12月にコスト削減の職員研修を実施し日常業務の中で一人ひとりが工夫できる点を共有し園全体で効果的な運営ができるよう努めている</p>
---	----------	---

Ⅱ-2 福祉人材の確保・育成

	第三者評価結果	コメント
Ⅱ-2-(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。		
Ⅱ-2-(1)-① 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	a	<p>①園は状況を随時法人と共有し、必要な人員確保と総合的な人事管理に努めている ②年2回面談を実施し、職員の意向や課題を把握したうえで配置や育成、働き方などの調整を行っている ③メンターメンティ制度を活用し法人内施設の先輩職員を相談相手として第三者的な立場から助言を受け客観的に振返れる機会を作っている</p>
Ⅱ-2-(1)-② 総合的な人事管理が行われている。	a	<p>①法人は人事制度マニュアル「一人ひとりの成長を叶えるための仕組み」を策定し期待する職員像～目標管理・処遇の反映まで明示し職員はいつでも確認できるようになっている ②職員は目標カードを作成し園長の面談を年2回受け助言をもとに達成度の振り返りを行い目標達成できるよう努めている</p>
Ⅱ-2-(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。		
Ⅱ-2-(2)-① 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取組んでいる。	a	<p>職員の意見や前年度の振り返りから今年度は以下の取組を進めている ①ノンコンタクトタイムを導入している。確実に運用できるよう担当者を定め日々の調整に努めている ②個人業務とクラスのToDoを整理した業務リストを作成し業務量の見える化に努めている 職員は進捗や負荷の状況を把握し互いに補完している ③土曜日のシフトを年間で示し職員が予定を立てやすくするよう努めている また連休がとりやすくなるよう調整している 有給の消化率は100%である</p>
Ⅱ-2-(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。		
Ⅱ-2-(3)-① 職員一人一人の育成に向けた取組を行っている。	a	<p>①園は単年度計画に職員に求める姿勢や取組を明示し、職員が園の運営や保育を自分事として捉えられるよう工夫している ②職員は目標管理シートに組織目標の達成に向けた各自の役割・貢献・成果を具体的な目標と実施方法を記載し達成に向け努めている ③園長は中間面談を実施し、職員と進捗を振り返り必要に応じて目標の見直しや調整を行っている ④園長は年度末にフィードバックシートへ達成状況や次年度の課題を具体的に記載し職員が次年度の目標設定や取組に活かせるよう努めている</p>
Ⅱ-2-(3)-② 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	a	<p>①園は年間研修スケジュールを作成し計画的に研修を実施している ②階層ごとの役割や経験に応じた研修など多様な研修メニューを用意している 園は参加できるよう配置や勤務調整に努めている</p>

<p>Ⅱ-2-(3)-③ 職員一人一人の教育・研修の機会が確保されている。</p>	<p>a</p>	<p>①園は月2回の園内研修と行政主催研修の受講を行っている さらに月1回乳児クラスは運営本部職員による巡回指導を受け、現場の課題に即した助言を得ている ②法人は年5回、同学年担当者が学年特有の課題や悩みを持ち寄り話し合えるWebミーティングを実施し、職員は他園の取組から日々の保育のヒントを得ている ③今年度から保育場を録画し子どもへの関わりや環境構成を客観的に振り返る機会を設け、保育の質の向上に努めている</p>
<p>Ⅱ-2-(4) 実習生等の福祉サービスに関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。</p>		
<p>Ⅱ-2-(4)-① 実習生等の福祉サービスに関わる専門職の教育・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。</p>	<p>a</p>	<p>①園は実習生受入れマニュアルを整備し受入れ手順や留意点を明確にしたうえで積極的な受け入れを行っている</p>

Ⅱ-3 運営の透明性の確保

	第三者評価結果	コメント
<p>Ⅱ-3-(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。</p>		
<p>Ⅱ-3-(1)-① 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。</p>	<p>a</p>	<p>①法人はホームページで「定款」「理事・役員名簿」「役員報酬基準」「現況報告書」「決算報告書」を公開している ②今年度、福祉サービス第三者評価を受審し、外部の視点を取り入れながら運営の透明性の確保に努めている またSNSの発信やドキュメンテーションを毎日掲示するなど保育活動のねらいやこどもの成長を保護者に伝えている</p>
<p>Ⅱ-3-(1)-② 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。</p>	<p>a</p>	<p>①法人は「事務」「経理」「取引に関するルール」を定め園はルールに沿って運営・報告を行っている ②法人近隣園と定期的に内部監査を実施し適切な運営に努めている</p>

Ⅱ-4 地域との交流、地域貢献

	第三者評価結果	コメント
<p>Ⅱ-4-(1) 地域との関係が適切に確保されている。</p>		
<p>Ⅱ-4-(1)-① 利用者と地域との交流を広げるための取組を行っている。</p>	<p>a</p>	<p>①地域清掃活動に参加し、地域の一員として地域づくりに努めている ②敬老の日に地域住民を招いた交流会を開催し子どもと地域の方が触れあえる機会を設けている</p>
<p>Ⅱ-4-(1)-② ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。</p>	<p>a</p>	<p>①マニュアルを策定し希望者が安心して参加できる体制を整備している ②中学生の職場体験を受入れ学校教育への協力を努めている</p>
<p>Ⅱ-4-(2) 関係機関との連携が確保されている。</p>		
<p>Ⅱ-4-(2)-① 福祉施設・事業所として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。</p>	<p>a</p>	<p>①児童相談所、療育施設、小学校などと連携を図り子どもの成長や福祉に関わる支援体制を整えている ②行政巡回指導など関係機関訪問の際には積極的に相談・アドバイスを受けるなど密な連携に努めている</p>
<p>Ⅱ-4-(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。</p>		
<p>Ⅱ-4-(3)-① 地域の福祉ニーズ等を把握するための取組が行われている。</p>	<p>a</p>	<p>①園は「市内私立園長会」「行政保育課担当者」「法人近隣施設との会議」などから情報を収集しニーズの把握に努めている ②毎月実施している地域交流の場で地域子育て世帯の声や自治会から地域の実態を聞き取るなどニーズ把握に努めている</p>

<p>Ⅱ-4-(3)-② 地域の福祉ニーズ等に基づく公益的な事業・活動が行われている。</p>	<p>a</p>	<p>①園は地域交流担当者を配置し、月2回、近隣の子育て家庭が参加できる子育て支援「れいもんどひろば」を実施している 季節に応じたさまざまな遊びの体験の機会を設けるほか、食事や子育てに関する相談に応じている ②SNSで専用カテゴリーを設け継続的な発信や市内19箇所ポスター掲示を依頼し利用を希望する人に情報が届くよう努めている ③運動会に未就園児参加プログラムを用意し同じ地域に住む子どもたちの成長を共に喜び合う機会にしている</p>
---	----------	---

Ⅲ 適切な福祉サービスの実施

Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス

	第三者評価結果	コメント
<p>Ⅲ-1-(1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。</p>		
<p>Ⅲ-1-(1)-① 利用者を尊重した福祉サービス提供について共通の理解をもつための取組を行っている。</p>	<p>a</p>	<p>①職員は「クラス毎の毎日ミーティング」「月2回の乳児・幼児別会議」「毎月の職員会議」「給食会議」等で各クラスの状況や園児各々について情報共有し一人ひとりに合った保育を行えるよう努めている ②連絡事項や気づきは担当ごとのチャットも活用し、必要な情報が全職員に速やかに届くよう共有方法を整えている ③幼児組はサークルタイムを実施し、こどもが自分の意見を出し、他者の考えを聞きながら話し合う経験ができるよう支援している ④子どもが「その日、その時に遊びたいこと」を自分で選ぶために職員は日頃から興味・関心を把握し遊びの素材やコーナー設定など環境の準備を柔軟に行っている ⑤幼児クラスは気持ちを表現できるよう「うれしい」「かなしい」「しんどい」「イライラする」等のカードを用意し、子どもが気持ちを伝え自分の感情や友だちの思いを知るツールとしている ⑥幼児組の昼食は遊びや生活リズムなどから決められた時間で行わず子ども自らの意思で決め食事を行っている また食事はバイキング形式を取り入れるなど一人ひとりの子ども主体の食事提供が行われている ⑦行事後に保護者アンケートを実施し、意見や感想を収集し次回の企画や運営の改善につなげるよう努めている ⑧年2回セルフチェックを実施し、園長は分析後必要に応じて職員と面談し助言を行っている</p>
<p>Ⅲ-1-(1)-② 利用者のプライバシー保護に配慮した福祉サービス提供が行われている。</p>	<p>a</p>	<p>①マニュアルや規程を定めプライバシーおよび個人情報保護に努めている ②SNS運用は投稿時の注意点や禁止事項を「人物」「環境」「状況」などに分けて整理し、職員が判断できるよう工夫している 投稿前のチェック体制で子ども・保護者・職員のプライバシーと個人情報を守っている ③幼児の着替えの際は遮蔽し、男女別に着替えるなどプライバシーへの配慮に努めている ④職員は家族構成や職業、家庭内の役割等を性別で決めつけないよう表現方法に留意している また園だよりやSNSなど発信の際は固定的なイメージを与えない表現となるよう、文言や挿絵の内容のチェックを行っている</p>

Ⅲ-1-(2) 福祉サービスの提供に関する説明と同意(自己決定)が適切に行われている。		
Ⅲ-1-(2)-① 利用希望者に対して福祉サービス選択に必要な情報を積極的に提供している。	a	①見学を随時受け入れ、web予約も行えるようになっている ②ホームページに「保育理念・保育方針」「保育の特色・活動」「年齢別一日の流れ」「年間行事予定」「重要事項説明書」「活動の動画」等を掲載し、入園後の生活を具体的にイメージできるよう努めている ③子育て支援「れいもんどひろば」を活用し園の雰囲気や活動を体験できる機会を設け希望者が体験できるようにしている
Ⅲ-1-(2)-② 福祉サービスの開始・変更に当たり利用者等に分かりやすく説明している。	a	①入園前に「重要事項説明書」「園生活のしおり」を用い、保護者が理解しやすいよう丁寧な説明に努めている ②持ち物は年齢ごとに品目・数量・保管場所・持参や持ち帰りの頻度を一覧で示し、備考欄は留意事項を明記している また図や写真付きの資料もあり保護者が迷わず準備や用意ができるようになっている ③園生活のお知らせやお願いは10分野に整理して示し保護者がすぐに必要事項を確認できるよう工夫している
Ⅲ-1-(2)-③ 福祉施設・事業所の変更や家庭への移行等に当たり福祉サービスの継続性に配慮した対応を行っている。	a	①転園時は行政を通じて在園中の「成長の記録」を次園に引継ぎ継続した保育や支援が行われるよう努めている
Ⅲ-1-(3) 利用者満足の向上に努めている。		
Ⅲ-1-(3)-① 利用者満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	a	①行政アンケート、園による行事後保護者へのアンケートを実施している ②園内アンケートは意見や感想を受け止め精査し次回の企画や運営の改善につなげるよう努めている ③今年度は「福祉サービス第三者評価」の保護者アンケートを活用し客観的に満足度を把握し改善に努めている
Ⅲ-1-(4) 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。		
Ⅲ-1-(4)-① 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	a	①第三者委員会を設置し「苦情解決責任者」「苦情受付担当者」を定めるとともに、記録書類の書式、利用者への周知方法、苦情解決制度の流れを整備し、苦情対応の体制を確立している ②入園時に重要事項説明書を用いて丁寧に説明するとともに掲示やホームページ掲載により周知に努めている
Ⅲ-1-(4)-② 利用者が相談や意見を述べやすい環境を整備し、利用者等に周知している。	a	①保護者が意見を伝えやすいよう「個人面談」「ICT」「アンケート」「意見箱」など各種用意している ②職員は登降園時に保護者へ声をかけ、相談や意見を伝えやすい雰囲気づくりに努めている ③職員は保護者の表情や様子に目を向け必要と思われる場合は積極的に面談の声かけを行っている
Ⅲ-1-(4)-③ 利用者からの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	a	①相談や意見が寄せられた際は、職員から園長へ即時報告し必用に応じて原因の整理や対応策・再発防止策を関係職員で話し合い安心して通園できるよう努めている ②アンケート結果は報告書として配信し保護者へフィードバックしている ③ホームページに年度の苦情・意見の件数を分野別に掲載・報告している

Ⅲ-1-(5) 安心・安全な福祉サービスの提供のための組織的な取組が行われている。		
Ⅲ-1-(5)-① 安心・安全な福祉サービスの提供を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	b	①安全計画・保健計画を策定し毎月テーマを定め研修・点検など計画的に実施している ②子どもの生活安全では衣服の調整、遊具・玩具の安全な使い方、交通安全指導など行い子どもが自ら安全について考え行動できるよう支援している 例えば 衣服の調整は活動前後に子どもと一緒に確認し気温や活動内容に合わせた上着の着脱や帽子の着用などを自分で判断できるようになるよう努めている ③広い園庭、室内の様々なコーナーなど主体的に活動が行える場所が多数あり子ども達は思い思いに活動ができています。さらに安全確保の徹底に期待します
Ⅲ-1-(5)-② 感染症の予防や発生時における利用者の安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	a	①年間保健計画を策定し毎月に実施事項や年齢別の配慮事項などを明記し園全体で安全対策を行っている またロールプレイを行うなど定着に努めている ②感染症発生時は園内掲示やICTなどで注意喚起し拡大防止に努めている
Ⅲ-1-(5)-③ 災害時における利用者の安全確保のための取組を組織的にしている。	a	①年間の防災・避難訓練計画と洪水時の避難確保計画を策定し毎月、地震・火災・風水害等を想定した訓練を実施している ②園は毎年9月に引渡し訓練を行い、保護者と連携して子どもの安全確保に努めている

Ⅲ-2 福祉サービスの質の確保

Ⅲ-2-(1) 提供する福祉サービスの標準的な実施方法が確立している。		
Ⅲ-2-(1)-① 提供する福祉サービスについて標準的な実施方法が文書化され福祉サービスが提供されている。	a	①法人は各種マニュアルを策定し基本となる実施方法を明確にしている ②マニュアルは4月の園内研修で確認し、職員が共通理解のもと保育にあたるようにしている ③園独自のルールは一覧表にまとめ、わかりやすく表示している
Ⅲ-2-(1)-② 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	a	①マニュアルの改訂は本部で行い、園は不明点が生じた際に都度本部へ上げている ②園独自のルールは不都合な場合、随時見直しを行い必要な変更を行っている ③プールの使い方など季節性ものは時期に合わせて手順を確認し子どもの安全確保と職員の共有の徹底に努めている
Ⅲ-2-(2) 適切なアセスメントにより福祉サービス実施計画が策定されている。		
Ⅲ-2-(2)-① アセスメントにもとづく個別的な福祉サービス実施計画(個別支援計画)を適切に策定している。	a	①職員はその日のこどもの様子、ICT連絡帳、家庭から得た情報を毎日クラス会議で共有している さらに各種会議・月2回の乳幼児会議で子どもの日々の変化、興味・関心、発達の状況を確認し小さな変化を見逃さないよう複数の職員で総合的に状況を捉え担当者が個別支援計画を策定している
Ⅲ-2-(2)-② 定期的に福祉サービス実施計画(個別支援計画)の評価・見直しを行っている。	a	①毎日のクラス会議・月2回の乳幼児会議・各種会議で目標の達成状況を複数の職員で確認し継続する支援・次のステップへの移行・内容の変更など検討し見直しを行っている
Ⅲ-2-(3) 福祉サービス実施の記録が適切に行われている。		
Ⅲ-2-(3)-① 利用者に関する福祉サービス実施状況(個別支援計画)の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	a	①各記録はICTに記録している ②クラス内の共有の他、乳児会議・幼児会議・職員会議で他クラスの職員に共有している ③担任は職員会議に向けて子どもの様子を整理し一覧にまとめわかりやすい共有に努めている

<p>Ⅲ-2-(3)-② 利用者に関する記録の管理体制が確立している。</p>	<p>a</p>	<p>①マニュアルに「保育者以外の人に見えるところに置かない。掲示しない。配布しない」「該当書類名」を明示し取扱いの基本を共有している ②個人情報に係る書類はファイルに「持ち出し禁止」の表示を付け鍵付きのキャビネットに保管し閲覧は事務所内とし離席時はキャビネットに戻すことを徹底し職員は順守している</p>
---	----------	---

A 個別評価基準

A-1 保育内容

	第三者評価結果	コメント
A-1-(1) 全体的な計画の作成		
<p>A-1-(1)-① 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて全体的な計画を作成している。</p>	<p>a</p>	<p>①保育所の理念・保育の方針や目標を踏まえ、こどもの心身の発達、家庭状況、地域の実態に応じた「全体的な計画」を作成している ②策定にあたっては各種会議での振り返り・各計画の評価結果・自己評価・保護者アンケート・地域から寄せられた声等を集約し次年度の重点や取組内容に反映するよう努めている ③全体的な計画は「社会的責任」「安全衛生」「食育」「子育て支援」「地域支援・連携」「異年齢保育」「支援児と育ちあう保育」「外部人材の活用」など細かく明記され園として重視する視点が職員にわかりやすく工夫されている</p>
A-1-(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開		
<p>A-1-(2)-① 生活にふさわしい場として、子どもが心地良く過ごすことのできる環境を整備している。</p>	<p>a</p>	<p>①法人は乳幼児期の生活環境が感覚の基礎が育つ時期とし職員研修で共有している ②保育室・ランチルーム・ホール・廊下など各所に大きな窓があり自然光が入る明るい室内環境を用意し、職員は整理整頓を心がけ、心地よい空間を保っている ③約300坪の園庭には花や実をつける木々を植え、築き山など変化のある地形を作り植物や虫を観察できる環境を工夫している 子どもは園庭の花を飾る姿があり、子どもも心地よい環境をつくれるよう促している 隣接地に畑を作り自然に触れ合っている ④適宜、法人による巡回があり子どもにとってより良い環境作りが行えているか確認している</p>
<p>A-1-(2)-② 一人一人の子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。</p>	<p>a</p>	<p>①その日の活動は子ども一人ひとりが「今やりたいこと」を自ら決められる子ども主体の保育を行っている ②職員は子どもの仕草や表情、目線から思いを受け止めている また職員は子どもが思いを広げ表現できるように行動をじっくり待ち、求めに応じて一緒に遊んでいる</p>
<p>A-1-(2)-③ 子どもが基本的な生活習慣を身に付けることができる環境の整備、援助を行っている。</p>	<p>a</p>	<p>①職員は家庭と共有し子どもの「やってみよう」「挑戦しようとしている」「興味がありそう」といったサインをタイミングを逃さず生活習慣が身につくよう支援している 例えば衣服のたたみ方はコーナーを設け、ラミネートの手順書を準備し子どもができるよう工夫している 見学时、職員はチャレンジする子どもの様子をそばで見守り、必要に応じて手の動かし方を示すなど、できたことを一緒に喜び合う姿が見られた</p>

<p>A-1-(2)-④ 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。</p>	<p>a</p>	<p>①その日の活動は子ども一人ひとりが「今やりたいこと」を選び、室内や園庭で自由に遊べるようにしている 室内は遊びの内容ごとに複数のコーナーを設け集中して遊び込めるよう工夫している ②主体的に活動できるように家具を園で作成し柔軟にレイアウトを変更している 手作り家具は年齢ごとの高さや運びやすい形状にするなど保育士の意見を取り入れて作成し保育活動を支えている ③採ってきた虫などを子どもの意向を汲み取り室内で飼育できる環境を整えている ④玄関ホールに各国の言葉の挨拶や国旗を装飾し子どもが異文化に触れられるようにしている ⑤職員はSDGsを子どもにわかりやすく伝えるため園の取り組みなどを項目ごとに整理し写真付きの掲示で見える化している 分別BOX・リサイクル寄付BOX・フードドライブ回収箱を設け身近な行動として取り組めるようにしている</p>
<p>A-1-(2)-⑤ 乳児保育(0歳児)において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	<p>a</p>	<p>①職員は子どもの体調・感情の動き・要求・興味の変化をより細かく捉えるために担当制を用い愛着形成に努めている ②職員は子どもが満たされる経験を重ねられるよう抱っこを多く取り入れている ③室内はスペースを分け食事・睡眠・遊びの生活リズムに合わせて小グループで過ごせるよう工夫している</p>
<p>A-1-(2)-⑥ 3歳未満児(1・2歳児)の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	<p>a</p>	<p>①1・2歳児は0歳児同様に担当制を取り入れている ②保育室は「食事」「休む」「遊ぶ」のスペースを分け、メリハリある生活できる環境としている ③遊ぶスペースはコーナーごとに子どもの発達や関心に合わせて玩具や環境を調整し遊びこめるよう工夫している ④生活習慣の獲得は保護者と情報共有し、「やってみよう」「興味がありそう」「やろうとしている」など子ども一人ひとりの発達状況を見極め取り組んでいる 園庭遊びは乳児組限定のスペースを設け安全に遊べる環境にしている また保育室からすぐテラスに出られる環境があり職員は一人ひとりの子どもの状況に応じて室内・室外の遊びを展開している ⑤食事は生活や遊びのリズムに合わせ、2～3名の少人数で行い集中して食べられるよう配慮している</p>
<p>A-1-(2)-⑦ 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	<p>a</p>	<p>①3歳～5歳児は主体的保育の実践が行われている ②職員は子どもの「チャレンジしたい」「何でだろう」「どうやったらできるのもっとやりたい」など興味や探求が高まる時を捉えられるよう観察に努め、常に環境の変更を行い興味や関心が広がるよう支援している ③間仕切りを設けず異年齢ですごしている 朝の年齢ごとの活動は除き日常の大半の時間を異年齢保育としている 年下の子は年上の子を真似し、年上の子は自然と手助けや思いやりが生まれている ③子ども主体の「サークルタイム」を実施し伝える・他者の意見を聞く・折り合いをつける・自分事として解決する力が育つよう支援に努めている 議題は子どもから募り日常の生活で気になっていることや行事でやりたいことなど関心のあるものとしている</p>

<p>A-1-(2)-⑧ 障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	<p>a</p>	<p>①平屋で段差が少なく、多目的トイレの設置、人工芝を敷いたテラスなど障害のある子どもが利用しやすい環境を整えている ②行政の巡回指導を活用し助言を受けながら支援に努めている ③療育機関と連携し情報共有や対応の検討を行い一人ひとりにあった支援に努めている</p>
<p>A-1-(2)-⑨ それぞれの子どもの在園時間を考慮した環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	<p>a</p>	<p>①全体的な計画に長時間保育があり迎えまで子どもが主体的にすごせるよう配慮している ②職員は必要に応じて休める場所を用意し一人ひとりのコンディションに合わせてすごせるよう配慮している</p>
<p>A-1-(2)-⑩ 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。</p>	<p>a</p>	<p>①「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」から一人ひとりの発達や興味に合わせた援助や働きかけに努めている 子どもが自発的に遊びに向かい存分に遊びこめる環境を整え、うまくいかない時はヒントや手本を示しチャレンジさせている ②例年3学期に近隣小学校主催の交流会に参加し子どもが学校の雰囲気に触れ、就学への期待が高まるようにしている ③サークルタイムでは「小学校ってどんなところ？」をテーマに子どもの疑問やイメージを出し合い、知りたいことを表現できるよう促し見守っている</p>
<p>A-1-(3) 健康管理</p>		
<p>A-1-(3)-① 子どもの健康管理を適切に行っている。</p>	<p>a</p>	<p>①年間保健計画を策定し、看護師を中心に健康に対して管理と指導にあたっている ②看護師は各クラスを巡回し子どもの普段の様子を職員と共有し子どもの健康を継続的に見守り支えている</p>
<p>A-1-(3)-② 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。</p>	<p>a</p>	<p>①健診の記録はICTで管理し職員全体で共有し特記事項があった際は書面で保護者に報告している ②医師の助言を保健計画や保育に反映している</p>
<p>A-1-(3)-③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。</p>	<p>a</p>	<p>①入園前面談で全ての保護者にアレルギー・未摂取食品について確認を行っている ②アレルギー該当児は医師の診断書を元に除去食を提供している ③誤食を「絶対に出さない」と徹底した管理の元、提供を行っている</p>
<p>A-1-(4) 食事</p>		
<p>A-1-(4)-① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。</p>	<p>a</p>	<p>①幼児の食事はバイキング形式を取り入れ自分で盛り付け、好きな席で友達と一緒に味わい食事への意欲や楽しさを味わうよう工夫している またランチルームにはカフェ風のメニュー看板を掲示し食事への期待が高まるようにしている ②世界の料理や各地方の料理を提供し、さまざまな味や食文化に触れられるよう工夫している ③様々なクッキング活動を行っている 例えば「自らしいたけやサツマイモを栽培しピザ作り」「5歳児は畑でだいこんを育て調理に挑戦し作ったものを年下の子に振る舞う」「園庭に実った果実でのジャムづくり」など自分で作った物を味わう満足感や達成感を感じられる活動を行っている クッキングは0歳児から行うなど成長に合わせてできることをチャレンジさせようと工夫している</p>
<p>A-1-(4)-② 子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。</p>	<p>a</p>	<p>①衛生基準・マニュアルを順守し安全な食事を提供している ②離乳食や幼児食移行時は一人ひとりの咀嚼の状態を細かく確認し家庭と共有の上で形や柔らかさ、刻み方を変更し成長に合わせて食べ進められるよう工夫している</p>

A-2 子育て支援

		第三者評価結果	コメント
A-2-(1) 家庭との緊密な連携			
A-2-(1)-① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	a	①ICT連絡帳に加え、毎日のクラス別ドキュメンテーションやSNS配信を通して子どもの成長や楽しんでいる姿を具体的なエピソードとともに家庭へ伝えている ドキュメンテーションは子どもが興味を持ったきっかけ、子ども同士のやり取りや発した言葉、遊びや活動がどう展開したかがわかるような内容である また職員の受け止めや次につなげたい視点、今後取り入れたい活動の意図も添え見通しを持って保育を行っていることを伝えている ②職員は送迎時にその日の体調や気持ちの動き、友だちとの関わりなどを具体的に伝え共に子どもを育てようと努めている	
A-2-(2) 保護者等の支援			
A-2-(2)-① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	a	①園だよりに「各クラスの様子やお知らせ」「からだ」「食事」「クッキングや野菜栽培」「園からのお知らせ」「月の予定」を掲載し保護者が知りたい情報を発信している 冒頭には家庭での子育てに活用できる内容を掲載している またSNSも活用し日頃の子どもの姿や活動の様子などをタイムリーに伝えている ②保護者から相談や質問があった場合は面談の時間を速やかに調整し状況を整理している ③職員は保護者の様子に気を配りいつもと違う様子が見られるときは声をかけ相談しやすい関係作りに努めている	
A-2-(2)-② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	a	①毎日、子どもの表情や体の状態、衣服の乱れ等を健康チェックの際に確認している 気になる点がある場合は園長へ報告する体制としている また保護者がいつもと違う様子が見受けられた際は積極的に声掛けを行っている 園全体で共有し早期発見に努めている	

A-3 保育の質の向上

		第三者評価結果	コメント
A-3-(1) 保育実践の振り返り(保育士等の自己評価)			
A-3-(1)-① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り(自己評価)を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	a	①「保育の振り返り」「年2回のセルフチェック」「年2回の自己評価」等で各自が振り返り、課題や目標を設定し質の向上に努めている 職員一人ひとりが園長と半期に1度達成状況や課題や具体的実施事項を見直し次期に実践を行えるよう努めている ②セルフチェック後は結果を持ち寄り「本当にそうなのか」の視点で互いに確認し合う機会を設けている	